

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成27(2015)年
7月号

通巻539号
毎月23日発行

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成27年7月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷製
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



沖縄県南城市で行われた、奥武島の6月、御願ハーリー 神奈川県横浜市 加藤晴美さん撮影 (文・6頁)

平成5 (1993) 年6月23日 月次祭法話より 褌ぎ、礼拝の仕方について

法主 矢追日聖 (満81歳)

罪削ぎ

昨日の夜中からかなり雨が降っており
ますが、六月は昔で言えば褌ぎ月です。
一月から六月の上半期の、肉体の垢と心
の垢を両方洗い流して下半期に備えたとい
う行事の月なんです。

水かぶって神さんを拝まはった人もよ
うけあつたらしい。今日、皆さん方は雨
の中をお出でになったので、まあ褌ぎの
ような形になってきていると思います。

百人一首の持統天皇の歌に、「春過ぎ
て夏来にけらし 白妙の衣干すてふ天の
香久山」というのは天の香久山に、褌ぎ
の時の白い衣が干してあるというような
光景なんです。

この六月は、大体日本の国を見ても政
権の方があぶついておりますし、大倭の
中でもガタガタと移り替わる時なんです
ね。決して悪くはならない、結論は良く
なるんですけれども、心と肉体のいろい
ろな意味において変化して一歩前進する
時なんです。今日は、皆さんもそういうこ
とをひとつ自覚してほしいと思います。

褌ぎは、罪削ぎという意味なんです。
罪と言っても、これは法律に違反する行
為のことじゃありません。神さんの罪と
いうのは、善も悪もないんです。善悪の
問題とは違うんです。心の中に悩みや苦
しみ、秘密を持っていることがよくない
ということなんです。包み隠しておる心
が、罪なんです。その罪を洗い流す行事
が褌ぎなんです。

御稜威の心

そうすると神さんからお徳とか恵み、ご利益というようなものがもたらえる。それを御稜威^{ミラミ}と言うのですが、水のことなんです。水のように万物を生かしておる行為が、御稜威の心なんです。

水そのものは、四角い容器物に入れたら四角になるし、丸い容器物に入れば丸くなる。また火を持ってくれば沸騰して熱になるし、寒くなれば水になるといように、自由に変化していく。そういう働きが神さんの心だということです。

信仰して神さんの恵みを受けたと言うてもね、神さんは、人間は死ぬように決めてはるから、健康に一日でも長生きしたいけれども、旬がきたら病気にもなるし死ぬんです。我々人間の俗な考えでいくと、神さんの心というのは慈悲があるのやら無慈悲なのやら分かりませんが、神さんというのは、いろんな変化をしてくる心の働きなんです。

だからそれを水に諭^諭えてあるんですね。訛^訛って御稜威^{ミラミ}です。その言霊で、自分の肉体に水をかぶるわけです。別に水かぶる必要はないんですけど、皆さんも六月には罪削ぎによって心身の垢を全部洗い流すというような心持ちで、これからあと半期をまた乗り越えてほしいと思います。

奈母太加天腹の意味

大倭の「ナモタカマノハラ」というのは一つの哲理なんです。霊界の人から聞きますと、「ター」は陽性のこと、「カー」は陰性のことで、その二つによって宇宙創成の原理は出発していると語ります。昼と夜、男性と女性、雄と雌、そういう

ように全て宇宙の仕組みというのは相対的に出来ているんですね。

相対的に別々ではあるんですけど、それは一体にならなければいけない。男と女が一緒になって、子供をこさえる。相対的なものの働きで子孫ができていくんやからね。宇宙の仕組みがそう出来ておるんです。

ここで、「ナモ」というのは絶対的に帰依するという言葉なんです。仏教では「ナム」と言いますが、私がお霊界から聞くと、「ナモ」とおっしゃるんです。

「ター(陽)」と「カー(陰)」が一体になるところが「ハラ」なんです。人間の肉体のようなちっぽけな「ハラ」もそうですが、例えば土は天地の「ハラ」なんです。

「奈母太加天腹」というのは、天という漢字を使ってますけれども、宇宙全体の大きな陰と陽が一体になるとい言葉なんです。

柏手の意味

それで礼拝の仕方として、合掌する時に、ただ手を合わせるだけでなく、打って音が出てこそ一体になっていると霊界の人がおっしゃるんです。仏教なんかでは手を合わせて鉦をチーンと鳴らしませね、あれは一体の印なんです。

その時に、右の手を少し下げます。何故かと言うと、左は陽なんです。右が陰です。陰陽一体と右手の陰を先に言いますが、これを一つ下げます。あなた達、子供こさえる時、女が下で男が上になるやろ。犬でも鶏でもメンタが下になりオンタが背中におるんですね。物には順序があるんですね。

世間でやったら右側が上のように思いますが、

右手が陰で女性、左手が陽で男性になります。だから座り方でも、左側が上座、右側が下座なんです。天皇も昔は左側で、皇后が右側やったけど、最近の天皇陛下は逆に立ってはる。まあ、変わりましたけど。

そういうことで、神さんを拜む時、右の手を少し下げます。そして一つ「奈母」と手を叩く。続けて「太加天腹」と四つ鳴らします。だから合わせて五つになるんですね。出雲は四つですけども、大倭は帰依するという「奈母」が最初に入ります。普通、たいてい二つなんです。

「奈母太加天腹」の原理を、型で表わした場合はそのなるし、言葉で唱えてもかまわない。どちらでも理屈は一緒なんです。

まあこんなこと、とらわれる必要はありませんが、今日は禊ぎ月なので一応知っておいてもらいたらいいんです。(文責・編集部)

私の「法王寸言」

あじさい色 矢追 房子

▼人間向上の鍛錬について

「日々の生活の中、日々の人間関係の中でその努力を続けてほしいんです。努力も鍛錬もせず、何でもかんでも神さん拜んだらいいと思ったら、大間違いなんです」

『とおやまと』平成25年3月号より
▼天地自然の神さんへの信仰とは

「今日も生きさせてもらってありがたいと、自然に対しての感謝の心で一日一日を積み重ねていくと、人生というものは幸福に行けるんやと私は思います」 『とおやまと』平成22年1月号より

※皆さんの心に残る法王様の言葉をお寄せ下さい。

平成5(1993)年8月23日 月次祭の後に

回向供養について、法主様にお尋ねしました

法主 矢追 日聖 (満81歳)

この日は、皆さんの手元に、前月の7月23日の法話をまとめた『おおよまと』紙がありました(※「あなたの清浄な心こそ、最高の先祖供養」というタイトル、来月号で再録します)。法主様は8月23日の法話の代わりに、それを読んでおいてほしいと言われたので、平谷照子さんによる朗読の後、中西正和大倭会会長の司会で、法主様に皆さんが質問することになりました。(編集部)

女性Aさん・初めて回向して頂いた時、「この状態やったら、まあ良い」と法主様がおっしゃったとします。それから東光大祭で年に一度回向して頂いて、三年ほど経ったら悪くなっているというようなのはないものですか? 人間やったら、最初良い人やと思ってても、だんだん悪くなるということもありますやろ。

法主・私が見て、良い方に行ってるのに、落ちるということは割合にないです。けれども家族が、回向供養を忘れていくと、あんまり良くないわね。生きている人と交流することによって、霊界人も良くなるんやからね。これは先祖代々、勤めてもらわないと……。

例えば、千年も遡った先祖さんなんか忘れてますで。ほったらかしているようになるわな。ところがそのご先祖さんが、現代の子孫に霊障害を与えている例もたくさんあります。そんなところから推察すると、代々、回向供養は続けていかなければと思います。

Aさん・所したら、良いとおっしゃたからとやれやれと安心して忘れてしまったら、変な形相で出

てきたりしますか?

法主・まあそんな例はないけどな。ただ、家の中喧嘩ばかりしていたら、濁った心で回向するんやから、それは相手に通じへん。あるいは苦しみを受けるようになる場合もあるかもしれんわね。現に生きている家族が仲良うすることが先決問題だと思っね。

中西・現世の我々の心の状態が、霊界の先祖さんに気持ち良う生活して頂けるかどうかに反映するということなんですね。

法主・今日の月次祭に、大倭に縁があつて八月に亡くなった四、五人の名前を書いて祭壇に並べてくれています。私が見たら、皆、一步一步前進してるわ。修羅道に堕ちとつたのが苦しまずにおう人いますよ。それは、やっぱり家族の人のお陰やな。熱心にお守りするというか、お給仕してご供養しているんやな。

女性Bさん・私の懇意にしている方なんですけど、仏教婦人会長をなさつていてご供養などは至れり尽くせりに、どこよりもなさつてるように見えます。それでいてお家を見ますと、霊障害かというような状態がたくさん出てらっしゃる……。

それにまた子供がいらない一人暮らしとか、子供がいても誰も供養してくれない人は、どうしたら救われますでしょうか?

どうもご供養も頼みにできないというような、この世における時に、自分で自分を成仏させておかないといけないという気持ちになります……。法主・そうやな。生きている時に、誰にでも好か

れるような心境で一生を送れたらね、ご供養のようなものなくても悪いところへ行きません。それは仏さんのような心になるということやから、仏教では成仏という言葉を使うけど。

多くの人間関係を作つて、誰にでも好かれるような自分になることだと思っんですよ。強欲であつたり人が悪ければ、広い人間関係はできません。自分が生きていくために求めるものは欲ではありません。天地自然から定まったものがあるんです。けれどもそれ以上に、人を泣かしたり苦しめたりして、自分の得ばかり考えるのは強欲やねん。うちの施設は昭和三十一年から始まつて、もう七、八百人くらい亡くなつてます。生活の面は公の費用で助けられていますが、親兄弟や親族はおつたとしても、回向供養する者が殆どいない立場の人が多いんです。だから、ここで生活したという縁によつて、その人達に全部戒名を付けて、東光大祭で私が回向供養をしています。結局ここが自分の故郷やし終焉の地ですからね、私は親類とか一族という気持ちです。それで、その人達は霊界でどう苦しんでいません、救われています。

依怙(えこひ)鼻肩(びしけん)になるんやけど、やっぱり縁というものがあつて来るんや。その縁にも濃い、薄いがあるしな。来たいと思つたかて来れない事情の場合もあるわ。

我田引水(わたひきみづ)になるかもしれんけど、うちの施設に入つてここで亡くなった人は、霊界では幸福やなと思っんですけどな。

あなた達でも皆、一族郎党の霊界人が後ろに付いて来ます。本当に真面目な人が一人おつたら、係累(けいらい)がかなり救われるはずですね。後に続く子孫がなくとも、ここに来ておつて、真面目な精神状態ですつと暮らしてきた人であれば、死後の世界は悪いことないと思います。安心して下さい。

Bさん…ここに縁がなかったら、化けて出るようになったかも知れませんが(笑)。自分では真面目な生き方をしているつもりでも、それでいいのかわかりませんでしよ。

法主…私の回向供養する中には、日蓮宗の人も、浄土真宗の人もたくさんおられます。日蓮さんは「南無妙法蓮華經」のお題目を唱えたら成仏する、「南無阿彌陀仏」の念仏を唱える人は無間地獄やとか言わはつたらしい。けど今の世で私が見て、お題目唱えている人でも地獄に墮ちてる人もおれば、念仏唱えている人でもええところへ行つて苦しんでない人たくさんおられます。その時代の背景といったものがあるからね、今の世の時点で、そんなこと問題にしないでいいと思います。

ほな日蓮聖人が嘘を言わはつたのかということになるけど、法華經壽量品の中にはそういうことが書いてあるの。けど日蓮さんは、釈尊の心が分かってなかったらお題目をなんぼ唱えたかてあかんとおっしゃつてるしな。

私は法華經を読みますが、それは文字を読んだだけでは分かんずわ。

成仏は、仏さんになるということやけど、私の見たところ、仏になれる人はあまりありません。地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上・声聞・縁覚・菩薩・仏と、十界に分けてますが、五番目くらいで普通の苦のない人間界におればよほど上位です。菩薩まで行っている人も、まあありません。地獄・餓鬼・畜生が多いですね。

これは心の状態の問題なんです。あまり強欲を出さないで、人に喜んでもらえるような功德を積んで、広く人間関係を作つて、みんな仲良くしていくと、死後の世界が良くなるということになるんです。そうしたら自分に子も孫もなかったから、仲間の人の心によって救われていくんですよ。

女性Cさん…二十五年前に、法主様に来て頂いた時に、武者の無縁さんがおるとおっしゃつた場所があるんです。そこに石を一つ置いて、年に一回お盆の時にお膳を作つてお線香を立てて、ずっとお参りしています。自分に力がないのに、そういうことをしているものか、それとも余計なことでしょうか。

法主…そりや通じますよ。年に一回だけでも、立派なお経も何もなくてもあげたらよろしいよ。(文責・編集部)

新ころとからだシリーズ(16)

父と私

三重県名張市 服部 洋平

今年の正月、大倭の李章根さんに頂いた年賀状で、『ペコロスの母に会いに行く』岡野雄一著・西日本新聞社という本を教えて頂きました。ペコロスというのは、フリーライター岡野雄一さんのペンネームです。この本は、認知症で要介護状態になった母と過ごした日々を温かく優しく、そして面白く描いています。認知症になった親に対して悲観的に悩み苦しむのではなく、楽観的に描かれています。この本の中に、こんなセリフが出て来ます。「私がボケたけん、父ちゃんが現れたとなら、ボケることも悪か事ばかりじゃなかかもしれん」「僕は、母がうらやましいと思う。認知症になって、母の中に父が生き返つたのだから、ボケることもそんなに悪いことばかりじゃないんだ、と」「忘れることは、悪いことばかりじゃない。母を見ていて、そう思います」。岡野さんは強がっているのでは決してなく、自然体でそう感じているのだと思います。介護をする人の気持ちに寄り添える素晴らしい本だと思います。

約3年5か月前、父が脳出血で倒れ救急搬送されました。検査の結果、脳動脈瘤もみつかり、手術をすることに。手術は無事に終わりましたが、介護が必要な状態になりました。約23年前に母が亡くなっているのに、私が父を介護することになりました。私はこの時、整体師として独立する直前で、良い場所もみつけていました。その場所を杉本順一さんに相談したら、「大丈夫でしょう」とのことでした。安心感と杉本さんのお心遣いに感謝していました。

普通ならここで、「なぜこんな時に…」と悩み苦しむはずなのでしょうが、どういう訳か、「これからは自分が父をみていくんだな」と、あっさり受け入れる事が出来ました。私はハラの座った懐の深い人間では全くありません。そんな人間ではなく、ものすごく未熟者である事は、自分自身が一番よく分かっているつもりです。なぜそんなに淡々とあっさり受け入れる事が出来たのか未だによく分かりません。「運命は決まっているのか、いないのか。自由意志はあるのか、ないのか」。私にこの答えは分かりませんが、そういう運命のシナリオだったのだろうかと思えます。

父には、脳出血による意識障害があります。症状は、認知症と全く同じです。そのお陰で言うては何ですが、いろんな悩みからも解放され、父の中では亡き母も生きています。『ボケるのも悪いことばかりじゃない』。父を見ていて、私もそう思います。そして何より私自身、初めて父に優しく出来たような気がします(自己満足かもしれませんが)。

父のことで、友人・知人、大倭の方々に激励をして頂きました。穏やかな心で対応出来ている事、多くの温かい人達に囲まれている事、本当に何よりの功德だと思います。

【再掲載】 若き日の法主さんの油絵
— 洗浄してもらい鮮明に —



『おおやまと』本年2月号の表紙に、法主さんが若い頃に描かれた油絵を掲載させていただいたのを覚えておられるでしょうか。あの絵のトーンがあまりに暗かったので画材屋さんをお願いして洗浄してもらいました。すると、見違えるように明るい雰囲気になったので、もう一度皆様に見ていただくことにしました。法主さんが描かれた時の色調にちかいものになったと思います。今のところ、どこを描いた絵であるのかは、はっきり分かっていません。 (哲)

こ
だ
ま
こ
だ
ま

和歌山県岩出市 森脇 聖淳

(5月号『おおやまと』で) かあさんの記事にご対面! 叔父中村英治の通夜の日、かあさんと法主さんにお目にかかりました。この方がかの有名な矢追日聖さん! ひぎを突き合わせてお話しさせて頂きました。正面から横から後ろから私の観察が始まりました。この人は透明人間! だ、と感じました。一時間ほど経ったところでお迎えの方が来られてお二人は帰られました。

翌年、大阪池田市での私の個展の際来てくれました。その上、聖徳太子の絵を買って下さり、それ以来私は法主さんを大好きになりました(笑)。



6月5日産経新聞夕刊で美術評論家の布施英利さんのコラム「美の解剖室」に、私の描いた両界曼荼羅絵の写真が掲載されました。(平成に甦る佛心 <http://www.butsuga.net> 参照) 五十嵐章さんが亡くなったとのこと、冥福をお祈りします。

(※森脇さんは鈴月かあさんのお姉さんの子で甥。聖徳太子像の絵は、拝殿にあります。また両界曼荼羅絵は『おおやまと』でも平成18年4月号表紙写真にさせて頂きました)

表紙写真によせて

沖縄の生活をふりかえって

長かった沖縄での暮らしが終了しました。たった5年のはずだった沖縄移住が14年という長きに亘ったのは夫、加藤彰彦(※野本三吉さん)の仕事が続いていたからです。

何も知らずに沖縄に連れて来て、文化の違い、習慣、風習の違いに戸惑い、笑いながら沖縄の魅力に引き込まれていきました。

何しろ、沖縄人はおおらかで、優しい。自分がしようと思っただけのことを、誰に言う訳でもなく、「切手買いましたよねえ」と言うのです。周りには私しかいません、誰と買うの？ 側にいた私は疑問に思う。これは、「私は切手買いますよ」と言っているのです。わざわざ口に出して言う必要はないのに。

それから、話をしている時に、「だからよー」と言っただけは何も言わない、だから何なの？ と思えば、「だからよー」の後、しばらく会話が途切れる……慣れてきたころに聞いてみると、これは相槌を打っているのだそう。だからよーは、「そうなんだよ」「だそうである。だから何も答えなくてもいいのです、笑ってしまうほど面白い。

沖縄の「うちなータイム」は知られていますが、この頃は、そんなにひどくなくなっています。でも私が来た当時は、まだうちなータイムが大手を振っていました。待ち合わせ時間が大幅に過ぎていたので、電話をかけたら「ごめん、ごめん」とナイチャーならすぐ行くから、という返事が返ってくるけど、さすが沖縄、おおらかです。「これからシャワーしてから行きましようねえ」とはも

神奈川県横浜市 加藤 晴美

う何も言えませんが。その後、ワルビレる事もなく登場します。これには一同まいったな。そんな時も沖縄の人は、何も言わずに笑って受け入れます、飲み会や忘年会などの集まりの時にそれが顕著に現れます。

一応、集合時間と会場は決まっています。ただ、内地の人は真面目というかごく当たり前に時間通り会場に行きますよ、うちなーはそれが違うのです。どう違うのかって、まず、時間通りには集まらないのです。幹事さんはさすがに来ていますが、その他の人は一人か二人しかいません、それでも始めるのです。

転勤族のご主人の話です。歓迎会をしてくれるので、会場に行ったら幹事さんただ一人、おかしいなあと思っていたら、幹事の方が「それでは始めましようねえ」と言っただけです。

「オイオイ待てよ。今日はおれの歓迎会ではないのかい」。ご主人はなんだか状況がつかめなかつたようです。「そのうち来るから始めるときましようねえ」。歓迎会は二人の寂しい会で始まりました。二人で話しながら飲んでいると、一人二人とだんだん揃ってきたのは開始時間から2時間経ってからでした。

みんなで飲んでいると一人が「おれちよつと行ってくるわ」と席を立ち出て行きました。その間でも遅れてくる人がいて、その度、何度でも乾杯をして盛り上がりまします。何人もの人が出たり入ったりしていても、誰も文句も言わずに楽しく場は盛り上がりまします。

ところがご主人は、初めての歓迎会、勝手が違

うのでどのように対処したらよいか分からず、主賓の自分が居なくなると、最後のお開きになる迄居たそうです。お開きは午前4時だったのご主人はもうコリゴリと言って帰ってきたそうです。歓迎会は、土曜日か、金曜日の夜に開かれることが多いので、次の日が休みということでも長くなるのでしよう。

出勤してから「自分は最初から最後までいたけどその意味はあったの？」と聞いてみると、答えはなんと考えられない返事が……。「適当に楽しんで帰りたい時に帰っても良かったよ」でした。ご主人はもう二度と飲み会にはいかないと怒っていました。郷に入っては郷に従えで、その後も文句を言いがら、頻りに参加していたそうです。結局は、ただ飲みたいだけなのですね。

沖縄の人はテイゲイと言われますが、ほっこりとした優しい言葉に聞こえます。さすがずしている世の中、そんなにきっちりとしなくてもいいのではないかしらと、沖縄に住んでその優しさが好きになりました。

本当に優しいのです。でも大和の人には沖縄の氣質が合わない方がいます。沖縄の人は、話し方もゆっくります。だから、せつかな方はいららるのです。きっちりしている人は、沖縄に住むにはきついかも知れません。

今、横浜に帰って来て、その速度の違いに驚いています。

こちら(横浜)では当たり前なのですが、私の前をバンバンすこい速度の会話が行きかっついて、ついて行くのがやっつとで、暫くするとその会話の輪からぼんやりしている自分に気が付きます。とても疲れます。

「ゆっくりにやればいいさあ」。ふと、おばあ達のそんな声が聞こえてきそうです。

寸 紗

第115回

宮崎栄次朗さん



専門バカにはなるまい

「ダメよこの子、赤ちゃんだと思っ
て油断したら!」。看護婦さん数人に
手足を抑え付けられたのは、生後数
ヶ月してからの事。風邪をこじらせ
て高熱を出し、病院に運ばれた宮崎
栄次朗さんの怪力に周囲は驚いた。

小さい頃から持てる力の配分には
困惑することが多々あったようだ。
例えば中学時代、プロレスごっこ
言いながらいじめを目的とした3人
組に呼び出された時、相手に合わせ
てふと出た動きによって、逆に3人
全員が保健室行きになったことがあ
る。また、不注意で窓ガラスを割っ
てしまい、先生に罰としてトイレ掃
除を言い付けられた時も、校舎中の
トイレを掃除し尽くし担任に驚かれ
たこともある。「損得勘定やかけ引
きとか、どうも出来なくて、やり出
したら途中でやめられないんすよ」

と明るく話してくれた。

宮崎さんは身長185センチ、34
歳。24歳で結婚し2児の父親である。
現在、菅原園のサービスマネジメント
として障がい者の相談員を担当しな
がら介護に携わっている。

昭和56年、大阪府枚方市津田で生
れ育った。石原裕次郎の大ファンだ
った父親によって、次男の宮崎さん
は栄次朗と名付けられた。ちなみに
お兄さんは祐一朗。二人合わせて音
が裕次郎となる。一番下に妹もいる。
子供の頃、「学校から帰ると、と
りあえず母親に学校での出来事を全
部話すんです。けど、人を馬鹿にし
たり侮辱するような事を言うのと叱ら
れた。そうか、今のはあかんかった
んやと気づかされた」んだそうだ。
元氣だった宮崎さんだが、小3の
担任に精神的に追い詰められた事で
何度か登校拒否を経験した。「小学
校で一番辛かったことだった」

担任も変わり、元気をとり戻した
宮崎さんにとって、「小6の時、ク
ラスで起こったいじめ問題を、当事
者同士が気持ち伝え合い、みんな
の話し合いによって解決していく先
生の方法に触れたのは大きな出
来事」だったという。

そんな宮崎さんの周りにはいつし
か小1の子達が教室にまで遊びに来
るようになった。「妹もいてるし小
さい子の面倒をみるのが好きでした」
宮崎さんの面倒見の良さは高校で

日本拳法部に入部してからも、先生
から後輩の相談を頼まれる事でも発
揮される。「かなり激しい稽古でし
たが、誰一人退部するものはいなか
った」そうだ。

高校ではパソコンが好きで情報処
理のプログラミングを得意としてい
たのだが、自主的に足の不自由な先
生の授業の手伝いをしていた事で、
先生に誘われて電動車椅子サッカー
や車椅子バスケットなど、障がい者
スポーツのボランティアをするよう
になっていった。「障がい者の人達
と関わって面白いと思った」

先生達から、「お前が福祉の方に
進むなら俺達全員が推薦状書いた
る」と言っ下さり、京阪奈社会福
祉専門学校に入学。

休日の殆どをいろんな福祉ボラン
ティアに費やし、その中で菅原園に

も通うようになる。

菅原園で一人の住苑者に、「兄ちゃ
ん、この職員になってくれへんか」
と言われ、「今まで経験した事がない、
人に求められているという感覚に響
いてしまい、就職先を決断した」。希
望通り菅原園に就職できた時には、
「これで喋り相手ができたな」とそ
の住苑者は喜んでくれたそうだ。

自分が自分らしくいれるのが住苑
者と関わっている時。「純粹にきて
くれるので純粹にコミュニケーション
がとれ、変な疲れがない」。だからこ
そ職員として対話を通して「利用者
本位」の仕事をしていきたいという。
「コミュニケーション、介護技術、
業務的な事など、人間を学んでいる
職場やと思うんです。だから人とし
て自分でいられるのかもしれないで
すね。専門バカにはならないように
したいです」

役職もついたが、「現場では職員
の信頼が得られなかったり、失敗だ
らけですよ」というが、自分の考え
を練り言葉化するきっかけにもなっ
ているようだ。

おちゃらけた面では吉本興業の芸
人に入カウトされた事もあるが、
「人と人の関わりそのものが財産」
という根っこは宮崎さんの個性と結
びついてゆるぎがない。

(聞き手 李章根)

あじさい日誌

6月10・12日 牧優祐さん(茨城県古河市)が交流の家泊。11日に教務本庁で杉本順一さんと懇談。

6月14日 祝会。中本好子(広島県大崎上島町)・喜多秀美さん(奈良県生駒市)が初参加。甲野善紀さんとその出版原稿をアシストされているライター

の平尾文さん来邑。大倭会館で夕食会。甲野さんは奈良市内泊。6月15日 大倭神宮月次祭。

6月18日 宮野スミ子・津末季代さん(大分県)、中村文子さん(奈良市)が来邑。
6月20日 出口容子さん(福岡県)が来邑。
午後、FIWC定例委員会。

6月21日 文化行事で神戸へ。詳細を後日報告の予定。

6月23日 大倭大本宮月次祭。今月号掲載の平成5年6月23日の法話をお聞きしました。手塚賢至さん(屋久島)が月次祭参加、交流の家泊とのこと

6月23日 大倭大本宮月次祭。今月号掲載の平成5年6月23日の法話をお聞きしました。手塚賢至さん(屋久島)が月次祭参加、交流の家泊とのこと

東光大祭 祖霊祭 祭典のご案内

平成27年8月28日(金曜日)・旧7月15日()

午前11時30分から、東方の碑で加美さまにご挨拶。正午から、奥津齋庭において祖霊祭が行われます。祖霊祭が終わる次第、拝殿に教長さんをお迎えして東光大祭が行われます。祭典後、皆様各ご家庭の経木をお渡しします。

祖霊祭のあいだ拝殿では法主様の東光大祭のご法話や紫陽花邑の記録映像等を聞いたり見たりしていただきます。

【注意】

祖霊祭の経木への書き込み受付は8月3日までとさせていただきます。

で『おおやまと』編集部で夕食会。同じく月次祭に来られた李章根さんのご両親や高杉葵さん(神奈川県横浜市)とその友人の山口さんも参加。

佐藤孝子さん(兵庫県神戸市)が帰幽されました。享年91歳。昭和40年代、紫陽花邑の若者が

大勢お世話になったことを思い出します。佐藤家でのマージャン大会、淡路島で海辺の一軒家を借切った海水浴、等々。これも法主さんの教えを信じ、心



酔されてこそ
の事であった
と思います。
ありがとうございます
ございました。(杉本
菅原園)

6月26日 大雨の中を合羽を着

大倭会主催 弥栄おどり

平成27年8月28日(金) 午後7時30分～

昭和43年にあじさい邑とFIWCの盆踊り大会として始まったものが、東光大祭夜の弥栄おどりとして定着、その後8月第4土曜日夏休み中の開催となり年月を重ねてきましたが、今回をもって一度幕を引くこととなりました。

原点に戻り東光大祭の夜に執り行い、4代目音丸師匠(今年3月に帰幽)を追悼しつつ一つの区切りとさせていただきます。皆さんこそご参加ください。

当日午前中に会場設営のお手伝いに一人でも多く来て頂くとありがたいです。老若男女問いません。

ご連絡は080-3803-7500 青山法義まで

※屋台はありません。大倭会館で懇親会を行います。午後4時30分～ 会費1,000円

あんない

6月24日 名古屋港水族館に日帰り旅行に出かけました。(須加宮寮)
6月25日 青垣園と互いに6名ずつが訪問し合って交流。(長呂根寮)
6月13日(デイ) 八重垣園前の紫陽花を見に出ました。
6月27日(特養) 10名のボランティアさんに感謝の集い。(茂毛路園)
6月22日 ボランティアさんによる今月の健康体操。(八重垣園)
6月12日 食堂で梅酒作り。

*月次祭(大倭神宮)
8月6日(木) 午後2時より大倭神宮にて。
*大倭会主催第559回祝会
8月9日(日) 大倭大本宮境内の清掃神事として午前9時よりなお大倭墓地清掃を午前8時から行います。
*大倭教立教開宣祭及び大倭神宮月次祭
8月15日(土) 午後2時より大倭神宮にて。
*月次祭(大本宮)
8月23日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。
*東光大祭及び祖霊祭
8月28日(金) 上欄に詳細。
*大倭会主催弥栄おどり
8月28日(金) 上欄に詳細。